

令和6年度 日本大学スポーツ科学部 個人研究費 研究実績報告書

所属： スポーツ科学部 競技スポーツ学科

資格： 専任講師

氏名： 桶田 由衣

<p>研究課題名</p>	<p>John Miltonの作品の教育、娯楽に関する研究</p>
<p>研究目的及び 研究概要</p>	<p>本研究は、17世紀英国詩人John Milton (1608-1674) が19世紀の英国の教育、特に1828年から1842年まで英国パブリック・スクールの一つであるラグビー校の校長を務めたThomas Arnold (1795-1842) への影響の有無を検証するものである。Arnoldの息子Matthew Arnold (1822-88) がMiltonを高く評価していたことから、Matthew ArnoldとMiltonの関係性に関する言及は先行研究においても認められる。しかしながら、その父Thomas ArnoldとMiltonの二人に焦点を当てた先行研究は多いとは言いがたい。そこで本研究は、Thomas ArnoldがMiltonについて、どのような文脈の中で言及しているか検証し、Miltonからどのような影響を受けているかを明らかにする。それが明らかになることで、Arnoldが行なったとされるパブリック・スクールにおける教育改革に、Miltonが間接的に影響を与えている可能性を示すことができる。</p>
<p>研究実績の概要</p> <p>研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等</p>	<p>今年度確認したArnoldの作品の中で6箇所、Miltonに関係する言及を見つけることができた。それらを内容ごとに分類した際、特徴的な点として、善悪に関する文脈の中で、ArnoldはMiltonについて言及していたことが明らかとなった。Arnoldが特に善悪について関心を寄せていたことは、ラグビー校における説教時だけでなく、授業時の様子からも認められる。Arnoldは、授業時に生徒の出来不出来に厳しい姿勢をみせており、宗教的な善悪に関する考えが、ラグビー校における授業にも反映されていたほどである。今年度は、Arnoldの著作全てを網羅できなかったため、今後の課題として、他の作品にMiltonの名が言及されていないかを検証する必要がある。</p>